

報道関係各位

2019年9月11日

<取材のご案内>

『工学院大学ソーラーチーム』の世界大会参戦に八王子市長がエール！

～ ソーラーカー世界大会まで約1か月、渡航直前のメンバーが八王子市長を表敬訪問 ～

訪問日: 9/18 (水) 11:30～12:00

場所: 八王子市役所 本庁舎3階市長公室

工学院大学(学長:佐藤光史、所在地:東京都新宿区/八王子市)の学生プロジェクト『工学院大学ソーラーチーム』は、10月13日からオーストラリアで開催される「2019 ブリヂストンワールドソーラーチャレンジ(以下、BWSC)」に参戦します。

工学院大学は、八王子市と2015年に包括連携協定を締結し、「学生の地域活動への参加」「地域の活性化」に積極的に取り組んでいます。そこで、『工学院大学ソーラーチーム』が、渡航直前となる9月18日(水)に八王子市長を表敬訪問し、チームの世界大会に向けての活動を報告するとともに、優勝に向けての意気込みを伝えます。つきましては、ご取材いただく場として是非ご活用ください。

『工学院大学ソーラーチーム』は、創立10周年を迎え、学生メンバーは300人を超えています。技術部・運営部・財務部などのグループに分かれ、車両の開発・設計から製作、レースでの走行、チームマネジメントなど全てを学生主体で取り組んでいます。6月に完成させた新車両「Eagle」は、2017年の前回大会終了直後から2年かけて学生自らが設計・製作を行いました。車体先頭(ノーズ)は受ける風を後方へ綺麗に流すよう、鷲(Eagle)のくちばしを模した“自然模倣”の形状を採用しています。10月に出場する「BWSC」は、太陽光を動力源として約5日間をかけて3,000kmを超えるオーストラリア大陸を縦断する世界最高峰のソーラーカーレースで、チームは初優勝を狙います。



チームメンバーと新車両「Eagle」

『工学院大学ソーラーチーム』 八王子市長表敬訪問 概要

- 日時: 2019年9月18日(水) 11:30～12:00
- 場所: 八王子市役所 本庁舎3階市長公室(東京都八王子市元本郷町3-24-1)
- スケジュール(予定):
 - ・出席者紹介
 - ・『工学院大学ソーラーチーム』のご紹介/世界大会に向けての意気込み(チームメンバー 尾崎大典・村田愛美・安部達哉・篠川大翔)
 - ・質疑応答
 - ・工学院大学副学長挨拶(工学院大学副学長 鷹野一朗)
 - ・八王子市長ご挨拶(八王子市長 石森孝志)
 - ・記念撮影

<取材に関するお問い合わせ>

学校法人 工学院大学 総合企画部広報課/担当: 樋口・松本・堀口
 TEL: 03-3340-1498 / e-mail: gakuen_koho@sc.kogakuin.ac.jp

■工学院大学ソーラーチームとは

参考資料

<特設サイト> <https://www.kogakuin.ac.jp/solar/>

“50年後の未来を考えた地球の持続的利用”をプロジェクトの理念に掲げ、学部や学科の枠を超えたメンバー300名以上が活動中。車両の開発・設計から製作、レースでの走行、チームマネジメントなど全てを学生主体で行っている。メンバーの成長のみならず、国連による「持続可能な開発目標(SDGs)」達成への貢献を目指す大学全体が取り組む活動の一つである。

チーム設立10周年に悲願の世界大会初優勝へ

工学院大学の学生プロジェクトは、学生グループの理工学に関する自主的な創造活動を活性化して、学生の創造性を育むと共に、社会でリーダーとして活躍できる人間的な成長を目指して活動。そのプロジェクトの一つである『工学院大学ソーラーチーム』は2009年にメンバー8名でスタートし、国内大会での連続優勝に留まらず世界大会への参戦を経験することで大きく飛躍、2019年には設立10周年を迎え300名を超えるプロジェクトチームに成長している。

大学の理念と強くシンクロした学生のチャレンジ

大学全体で挑戦する世界大会への参戦は、工学院大学が掲げる「無限の可能性が開花する学園」という理念の大きな実践の場となる。『工学院大学ソーラーチーム』は、車両をメインに扱う技術部、サポート企業との調整や広報を担う運営部、会計全般を管理する財務部に分かれ、車両開発・設計から製作、レースでの走行、チームマネジメントまで全ての役割を学生自らがしている。学生は自主的・能動的なチームの活動を通して、社会でリーダーとして活躍する力を養い、ソーラーチームでの活動を経験した卒業生の多くが、日本有数の自動車メーカーや関連企業において最先端の現場で活躍、日本の技術力を支えている。

“理工系大学”の特徴を生かし、豊富な研究資源・充実したものづくり施設を最大限に利用

制御工学を専門とする濱根洋人監督(工学部 機械システム工学科 教授)を筆頭に、日々、先端研究に励む機械・化学・電気・情報・建築分野から多数の教員陣が、学部・学科の枠を超えて横断的な技術支援を展開。また、2017年には総合研究所内に「ソーラービークル研究センター」を立ち上げ、最先端研究によって技術面をバックアップするとともに、キャンパス内の様々なものづくりの施設・設備を利用して車両製作に取り組んでいる。

工学院大学ソーラーチームの主な戦歴

2010年	8月	ワールド・グリーン・チャレンジ(国内)	—	1号機は当時世界初となる4輪で初出場、約600km走破。
2011年	8月	ワールド・グリーン・チャレンジ(国内)	準優勝	前回大会の経験を生かし約900km走破しチーム初の入賞。
2012年	8月	ワールド・グリーン・チャレンジ(国内)	優勝	ソーラーカー部門とチャレンジクラスで優勝の2冠制覇。
2013年	10月	ブリヂストンワールドソーラーチャレンジ(オーストラリア) チャレンジャークラス	—	2号機 Practice を製作し参戦。完走できず途中数力所でトレーラー搬送。
2014年	8月	ワールド・グリーン・チャレンジ(国内)	優勝	台風の影響でレース時間が大幅に減少するも、断トツの成績で優勝。
2015年	10月	ブリヂストンワールドソーラーチャレンジ(オーストラリア) クルーザークラス	準優勝	3号機 OWL を製作し参戦。レース走行はトップでゴールしたが総合順位で準優勝。
2016年	8月	ワールド・グリーン・チャレンジ(国内)	優勝	大会新記録樹立、チーム史上初・女性ドライバー誕生。
2017年	10月	ブリヂストンワールドソーラーチャレンジ(オーストラリア) チャレンジャークラス	第7位	4号機 Wing を製作し参戦。レース直前のアクシデント(車両破損)もチーム力で乗り越えて完走。
2018年	8月	ワールド・グリーン・チャレンジ(国内)	優勝	レース中の悪天候や車両横転のトラブルに直面するも接戦を制し総合優勝。

2019 ブリヂストンワールドソーラーチャレンジへの主な参戦スケジュール

7月13～14日	テストコース走行・模擬レース訓練
7月29日	ソーラーカーや物資を船便輸送
9月21日	メンバーがオーストラリアへ出発
10月7～12日	静的車検及び動的車検
10月13～18日	本戦レース期間
10月20日	表彰式
10月23日	メンバー日本帰国



2017 年前回大会の様子



学生自身が車両を製作

■ブリヂストンワールドソーラーチャレンジとは

〈特設サイト〉 <https://www.bridgestone.co.jp/bwsc/>

太陽光を動力源として、約5日間を掛けオーストラリア北部のダーウィンから南部のアデレードまでの約3,000kmの総走行技術を競う世界最高峰のソーラーカーレース。3つのクラスでそれぞれの基準に従ってレースを行う。夜間は各チームが広大な砂漠の中でそれぞれキャンプを張って過ごすなど、心身ともにハードなサバイバルレースで、2017年に行われた前回大会では19の国と地域から大学生を中心とする38チームが出場。今回大会では24カ国から53チームが出場予定。『工学院大学ソーラーチーム』はチャレンジャークラスに出場予定。



レースは広大な砂漠地帯を走行

〈2019 ブリヂストンワールドソーラーチャレンジ概要〉

- 開催期間: 2019年10月13日(日)～20日(日)
- 開催場所: オーストラリア(スタート: ダーウィン、ゴール: アデレード)
- 主催者: 南オーストラリア州政府観光局
- 大会タイトルスポンサー: 株式会社ブリヂストン
- 大会クラス区分:
 - ・チャレンジャークラス/タイヤ4輪、ドライバー1名、速度を重視したデザインの車両で目的地までの順位を競う。
 - ・クルーザークラス/タイヤ4輪、ドライバー1名+乗員1名以上が乗車、エネルギー効率や実用性を競う。
 - ・アドベンチャークラス/過去の大会の規則に準じた車両など、上記2クラスの条件を満たさない車両も参加。
- 参加予定チーム: 53チーム(24カ国)